

令和5年度東京都立目黒高等学校 学校経営計画

東京都立目黒高等学校長

1. 目指す学校

(1) スクールミッション

「知性豊かな人格形成、個性の伸長、自主・自律の精神育成」を教育目標とし、生きる為の基礎的・基本的な知識や人権感覚及び規範意識を身に付け、将来にわたり学びを継続する態度の育成を通じて、国際社会に貢献する生徒を育成します。

(2) スクールポリシー

① グラデュエーション・ポリシー

基礎・基本を身に付け、主体的に知識を活用する力を育み、高い志を掲げその達成に向けた計画的な努力の継続を惜しまず、論理的思考力・判断力・読解力の定着を図り、何事にも負けない、健康や体力、忍耐力、精神力を育む、人権尊重の精神を併せ持ち、規範意識を身に付け自主的自律的に行動する能力を育成する。

生きる為の基礎・基本となる知識を身に付け、様々な課題に主体的に取り組み解決するための論理的思考力・数学的思考力・読解力を育み、的確な判断ができる力を育成する。また、特別活動等を通して健康や体力、精神力や忍耐力、規範意識や人権尊重の精神を育み、自主的かつ自律的に行動できる生徒を育成する。

② カリキュラム・ポリシー

5教科すべてを余すことなく必要な知識と認識し、基礎・基本を身に付けさせ、将来の高い志の達成のために3年間を見通した教科・科目を段階的に深化し学習をする。

全教科で学ぶ内容を生きる為の知識と捉え、理系文系に関わらず全ての教科で基礎・基本の定着を図り、数学力や英語力の向上を目指し大学入学共通テストに対応する。また学校全体で読解力や表現力の向上のための取組を行い、文章力を育成する。

③ アドミッション・ポリシー

本校志望の意志が強く、自らすすんで学習に励み、その学習成果が期待できる。また規則正しい生活を送り、頭髪・身だしなみを整え、ルール・マナーをしっかりと守る心構えがあること。基礎学力を身に付けていて、入学後も続けて学力の向上が期待できる生徒。生徒会活動や部活動、学校行事などに積極的に参加し、努力したと認められる生徒で、これからも学校生活の中でその活動を続けることが期待できる生徒。特に推薦選抜においては、出席状況の良好さとともに、前述の活動で中心的役割を果たしたものが望ましい。

学びに対する意欲を持ち、自分の将来に対する高い志をもち、学習のみならず部活や学校行事等などに積極的に関わり努力を惜しまない生徒。様々なことに対する疑問を持ち、疑問の解決に主体的、積極的に取り組むことができる生徒。規則正しい生活習慣やルールやマナーを守れることは当たり前である。

2. 中長期的目標と方策

(1) 学習指導

- ① 高等学校で身に付けるべき基礎・基本を定着させ、知識を活用して探究活動や創造活動等の実践力を育成する。
授業第一・授業確保、習熟度別授業、日常の補習、講習の充実、カリキュラムマネジメントの活用
- ② 読解力・論理的思考力・判断力などを育成し、深い学びを実現し広く社会に貢献できる活用力を育成する。
読書活動、音読活用、理数教育、実技科目、総合的な探究、人間と社会などを活用
- ③ 高等普通教育により、全教科を適切に学習し5教科7(8)科目受験に対応できる力を育成する。
文系・理系を区別せず全生徒が学習できるカリキュラムの活用
- ④ 理数教育を充実させ、主体的に課題を発見、解決に向かう力を育成する。理科・数学科・情報科を中心に、調査研究、探究活動や課題解決学習などを活用
- ⑤ 英語教育を充実させ、グローバル化する世界に対応できる技能を育成する。
英語四技能を図るツール、JET、To Do リスト等の活用、留学生の積極的な受け入れや留学の推進
- ⑥ 特別講習期間や長期休業期間の講習を充実させ、学力の向上や課題解決を図る。
講習を大学受験に向けた内容で設定、学力を伸ばさせる講習実施、補習は随時実施
- ⑦ 情報化 (ICT) の有効活用、AI の考えたかを取り入れた授業を実践し、生徒の深い学びを育む。
AI 型授業を全員で実施、教員相互の授業研究を推進し深い学びを提供
- ⑧ 情報機器を活用しオンライン学習を推進、授業と自宅学習の連携や学習定着を目指す。
i-pad を活用し、振り返りや質問対応、更に e ラーニングによる個別対応を進め生徒個々の学びに責任を持つ
- ⑨ 学習習慣を定着させ、自ら進んで計画的に学習し目標に向かった地道な努力ができる力を育成する。
生活習慣の適正化、朝テストの実施、目高手帳の活用、ICT 機器活用による計画的な学習計画の指導

- ⑩ 自学自習を推進するため施設設備や場所を活用し、学ぶ環境や意欲を高め、諦めず努力する力を育成する。
学習場所や学習時間の確保、質問等への日常的な対応、学び合いの活用と ICT 活用を推進
 - ⑪ 人権意識を高め、生命尊重を基本に思い遣りの心や感謝の心、ボランティア精神を育み社会貢献を推進する。
総合的な探究の時間、道徳教育、オリパラレガシー教育、地域奉仕活動や防災教育を活用する
- (2) 進路指導
- ① 3年間のキャリア教育計画を活用し、全教育活動を通じて高い志を育成し自己実現に向けた支援を行う。
目高手帳(キャリアポート)を活用、各種説明会や講演会、オープンキャンパス等による興味関心の醸成と志の育成
 - ② 生徒理解に努め、担任・学年・進路指導部が連携したキャリア教育を立案実施する。
面談、三者面談の全員実施、保護者との連携で高い志の育成と協力体制構築
 - ③ 自主的な学習計画を立てさせ、目標達成に向けた講習会等の企画立案を行う。塾に頼らない指導の実施
長期休業前(夏：5月、冬：11月、春：3月)に講習の予定を示し主体的な学習を支援する
 - ④ 自己実現に向け大学入学共通テスト受験を念頭に、模試計画等を立案し諦めさせない指導の実施。
模試分析会等の分析を教科担当が行い実態把握、授業改善、授業計画修正等、生徒の学力向上を支援する
- (3) 生活指導
- ① 人間関係、環境整備など学習環境を整え、学習に集中できる学校づくりを徹底する。
挨拶運動、校門指導、清掃活動を徹底しコミュニケーションを図り課題の早期発見解決に努める
 - ② 人権意識を高め、基本的な生活習慣の確立と社会規範を定着させるため学校教育全体で取り組む。
全校集会、学年集会、ホームルーム等での指導、遅刻を許さず学ぶ雰囲気は早い時期から作成する
 - ③ コミュニケーション能力の育成、相手との直接会話を大切に意思疎通を図れる力を育成。
SNS等の利用は目高ルール及び情報リテラシー指導を行い、情報化に対応した指導も併せて実施
 - ④ 生活指導部が中心となり、全教職員が統一した指導を行い、日頃から本校生徒にふさわしい身だしなみを身に付ける。
本校生徒としての自覚と責任を啓発し、本校に誇りを持った姿勢や行動を育成する
 - ⑤ 授業、HR指導、特別活動を通して、生徒との信頼関係を構築し生徒一人一人に寄り添った生活指導を実施。
担任のみでなく、学校職員全員で生徒理解を進め丁寧な指導を実施し人間性を合わせて向上させる
- (4) 特別活動
- ① 体育祭・文化祭・合唱大会等、各実行委員会が主体的に企画・立案・実施・反省する力を育成し自主性を育成する。
行事を通して思いやりの心、協働の大切さなど生きる力を身に付けさせ、達成感や成就感による自主・自律を育む
 - ② 部活動の場を望ましい人間関係形成の場、健全育成の場として競技力向上とともに積極的に活用する。
部活動で自主的・自律的活動を経験し、向上心・公正・協力・責任などの精神を育成する
 - ③ 地域との連携を深め、地域に貢献できる活動を積極的に展開する。
生徒会、委員会、部活動等への積極的な参加や、自他を思いやる心の醸成、奉仕の精神を学び地域の還元する
 - ④ 小学校、中学校に向けた体験授業や説明会など、教員・生徒が協力し本校の教育活動をアピールする。
体験授業、中学生学習支援、学校説明会等に関わり、誇りや責任を体験するとともに本校の理解を深化する
- (5) 経営企画・環境整備
- ① 危機管理体制を強化し、防災組織、防災訓練等を実施、自助・共助が可能で安全な学校を作る。
不審者等対応、施設の安全管理の徹底。発災時の対応組織、防災訓練実施による自助共助の力を育成、
 - ② 近隣大学等と連携関係を構築、地域や保護者、同窓会との連携を合わせて教育活動の充実を図る
講演会(理数講演会含む)の講師派遣、PTA主催の講演会など、教育資産を活用し学ぶ意欲の向上を図る
 - ③ スマートスクール導入による、一人一台 i-pad 利用など、情報化社会に対応できるスキルを養う
ICT活用授業や生徒個人に対する個別指導など情報機器を活用して学力向上を推進する
 - ④ 経営企画室との連携をさらに強化し、職員全体がチームであり、経営に参画する意識を向上させる。
教員・職員ではなく、本校の教職員として相互に協力し学校運営に積極的ににかかわり学校改革を推進する
 - ⑤ 築20年を超えた校舎、施設設備の老朽化に対応し安全な環境を維持。改善の計画的実施
日頃の点検や定期的な施設点検、破損箇所等の発見報告体制の充実

3. 今年度の取組目標と方策

<新型コロナウイルス感染症拡大防止への対応>

○緊急事態宣言等により、通常の学校運営が困難になった場合

・東京都教育委員会の判断により休校、休業、分散登校等が実施される場合には、ICT を活用し健康把握やオンライン教育と対面授業の組み合わせで、学びを継続する。

①毎朝の自宅での検温報告は Teams を利用して報告

②課題配信等については、原則として Classi もしくは Teams を利用して配信する

- ③オンライン授業についても Teams や Youtube、Zoom 等を活用して実施する
- ④eラーニング等のオンライン学習(Classi など)の利活用も行う
- ⑤HR 等オンラインでの対話を確保し相談等への対応を充実（カメラを使い、顔色や表情を見て対応）
- ⑥時間割や学校行事についても、都度対応を行い生徒の体や心の健康を維持

※全生徒一人一台端末(i-pad)導入が完了しているため、授業のオンライン化やハイブリッドでの実施、生徒の生徒会活動(委員会活動や部活動)等や自主的な活動も実施が可能。また、学びの振り返りや質問への対応など個別学習への対応も可能である。更に ICT の活用し、学びを継続する環境や授業形態などの工夫を推進する。

(1) 教育活動の目標と方策

※『進学指導研究校』として、計画的な学習を指導し生徒の学力向上に努め、自己実現に寄与する。

<学習指導>

①学習習慣の育成

- ・カレンダーアプリや目高手帳を活用し、主体的かつ計画的に家庭学習時間確保や隙間時間活用を目指す。
- ・1・2 学年においては、英数国を中心に朝テストを計画的に実施し、毎日の学習習慣を育む。
- ・ICT 機器を活用した自学自習の課題提供や振り返りや質問対応等を実施し個別の学習も支援する。
- ・eラーニング等の教育情報外部コンテンツの利用を促進し、計画的な取組を指導する。
- ・「生活実態調査」による学習事案の調査を実施し、集計や分析、検証を行い学年プラス 2 時間の学習習慣定着を図る。

②授業改善の推進

- ・各教科において新学習指導要領に示された方向性に従って授業改善を行うとともに、観点別評価を適切に実施する。
- ・全ての授業に、アクティブラーニングの視点を取り入れ、深い学びとなるよう問いかけの工夫を行う。
- ・授業の相互見学や指名制の授業見学、ICT を利用した授業研究等を活用し、効果的な指導法を研究・導入する。
- ・生徒による授業評価結果の分析を生かし、各教科で組織的な授業改善を実施し、目黒高校としての目標を目指す。
- ・毎時間の授業評価や、授業内の振り返りを ICT を活用して実施する。合わせて質問への個別対応を行う。
- ・授業と家庭学習の目的を明確に分け、授業では対話や知識を活用した活動など学校でしかできない内容を充実する。

③自学・自習習慣の確立

- ・自習室等の環境整備や利用時間を検討し生徒の自主学習の支援を行う。
- ・自学自習に利用できる大学別のプリントや問題を各教科で準備し、いつでもだれでも利用できるようにする。
- ・土曜授業日の放課後に学習講座を設定し生徒の自主的な参加を呼びかけ、学力の定着を支援する。
- ・オンライン教育を活用し、出題・提出・添削・解きなおしなど、自学自習をサポートする。

④言語能力向上

- ・すべての教育活動において言語活動を意識し、読解・分析・思考・討論・発信する取組を充実させる。
- ・言語能力向上のため、音読の活動を大切に指導する、また、小論文指導や演劇指導などを合わせて実施する。
- ・読書活動を推進し、活字離れを防ぎ読解力の向上や表現力の向上に努める。書評合戦を活用する。

⑤国際理解教育推進

- ・国際交流や留学生の受け入れなどを積極的に導入し国際理解を深め、異文化体験や理解を推進する。
- ・英語四技能の定着を目指し、英語力向上の指針とするため外部試験を活用する。
- ・韓国との国際交流を継続し、友達プロジェクトを推進する。
- ・TGG などを活用し英語に親しむとともに、日常の英会話を使いこなし意思疎通や意見交換が出来るようにする。

⑥理数教育推進

- ・理数への興味・関心を啓発し課題発見と解決方法の模索統の探究活動を推進する。
- ・理数関係の講演会を充実させ、理科・数学・情報関係の理科系を志す生徒の発掘・育成と進学を支援する。
- ・日常からの観察や体験から課題や問題を発見しその課題に主体的に対応する能力の開発に努める。

⑦難関大学進学を目指した進学指導

- ・国語・数学・英語の基礎を 2 年までに固め、3 年 0 学期からの志望校を目指した学習支援を充実させる。
- ・5-7 受験を目指し、理数科目を切り捨てさせず生徒の目標を達成させる学力を育成する。
- ・共通テスト全員受験させ、国公立大学や難関大学を目指し、2 次試験対策として個別指導等を充実させる。

⑧総合的な探究の時間

- ・疑問や不思議を抱く習慣の育成、鶴呑みにしない精神を育成し、課題を掘り下げ解決する姿勢を育成する。
- ・探究の方法を身に付け、生涯にわたる探究の精神を育み、より良く生きる力を育む。
- ・教科横断的な課題や日常の課題など、各自で探究のテーマをもち主体的に解決する努力が出来る人間育成を行う。

<進路指導>

①計画的な進路指導の実施

- ・進路指導部が組織的・計画的に進路指導を主導し、担任や教科担当者及び保護者と協力し目標達成を支援する。
- ・模試分析会やケース会議を進路部と学年教科担当が分析し、外部専門家の助言も得て進路指導を充実させる。

②キャリア教育の推進

- ・キャリアパスポート(目高手帳)を活用するとともに、高大連携を推進し、学部学科説明会、大学模擬授業等を実施する。
- ・外部機関を活用したキャリア教育を実施し、進学を早期に発見できるよう支援する。

③長期休業中の講習

- ・夏季、冬季、春季講習と部活動等の活動を制限した特別講習期間を夏季・冬季に設ける。
- ・講座の質・量を高め、目標を明確にした講座を設定し参加生徒を増やす。

④進路データの蓄積と校内研修

- ・数年間のデータの分析を通して、毎年の段階的目標を立て指導できるよう模試や評定と進学先の分析を行う。
- ・分析の結果を校内研修等で全職員が共有し、グランドデザイン等で示す生徒の自己実現を支援する。

<生活指導>

①生活指導の徹底

- ・生活習慣を定着させ、計画的な時間利用方法や社会生活の規範意識を高め、学習に集中できる環境を整備する。
- ・学校生活や社会でのマナーを守り自他を尊重し思いやりの心を育み、主体的に行動できるように支援する。
- ・情報化に伴う、ICT 機器やスマートフォン類の利用について、生徒が思考・判断し適正な利用が出来るよう支援する。

②学校行事の活性化

- ・行事の主体を生徒会や実行委員会に委嘱し、生徒による自主・自律的な取組となるよう見守り支援する。
- ・生徒会、実行委員会の活性化を図り、生活指導部も新しい行事の在り方や方向性を検討し生徒の自主・自律を支援する。
- ・目高のよき伝統を継承するとともに、新しいものを取り入れ責任感や共働を経験し達成感や成就感を味合わせる。

③部活動の活性化

- ・自主的な活動として健全育成の中心となる部活動を教員も支援し、積極的な参加を促し有用感やリーダーシップを育む。

④防災教育の活性化

- ・自らの命を守る力を身に付けさせ、自助を確立させる。合わせて弱者に対する配慮や行動が起こせる力を育成する。
- ・地域と連携した防災教育や宿泊防災訓練等を実施し、地域に貢献できる共助の精神と行動力を身に付ける。

④2020 東京オリンピック・パラリンピック教育のレガシーの発展

- ・オリパラで身に付けたボランティア精神や国際理解教育を継続する。また体育祭のオリパラ競技をさらに発展させる。

⑤健康増進

- ・ヘルスプロモーションの考え方で活用できる講演会や保健講話を実施し健康教育を推進し健康について考えさせる。
- ・保健体育、体育行事、運動部活動等を活用し、生徒の体力向上を図る。
- ・新しい感染症などに対応する、感染症予防対策や物品の備蓄を計画的に実施する。

⑥環境美化

- ・快適な学習環境の維持を図り、自主的な学びの場所を自主的な管理により維持するなど活動を充実する。
- ・美化委員会、保健委員会の活動を活性化し、各委員会の通信など情報発信を進め、生徒の主体的な行動を育む。
- ・校内のみならず地域や居住地区などでも貢献できるような福祉の精神を育み、地球環境を守る心を育成する。

<広報活動>

①募集対策の工夫

- ・募集活動を情報総務部と生徒会で連携し、中学生に分かりやすい説明会等を実施する。
- ・ICT を活用した、学校案内、HP、活動報告等を工夫し、学校情報を発信し続ける。
- ・小学校や中学校における公開授業や体験学習の機会を利用して本校の取組をアピールする。

②HPの充実

- ・定期的な更新で生徒の活動、学校の様子等を適時に配信する。受検生や保護者に本校の特色を伝える工夫を行う。

③地域連携

- ・「人間と社会」の体験活動において、地域との連携を継続する。 ・目黒区や地域社会と連携して防災訓練等を行う。
- ・公開講座や施設開放を行い、開かれた学校作りを推進する。

<組織>

①組織運営

- ・ライフワークバランスを確保する観点から、月45時間の上限を超えないよう業務の効率化を図る。
- ・新しい学習指導要領に基づき、本校の目標を実現する教育活動を行い、組織を必要に応じて改革する。
- ・分掌業務の統廃合を行い、情報総務部の新設、保健部の生徒部移管など効率的な学校運営組織を構築する。
- ・目黒高校の各内規の見直しを毎年実施し、人に頼らない組織化を図るとともにワンチームとして共通認識を形成する。

- ・教科会を定期的に実施し、学習の進行管理を適正に行う。また、結果について分析を実施し、改善に活用する。
- ・主幹会議、企画調整会議、教科主任会議の連携を強化するが、事前の意見調整や意見交換を日常から推進する。
- ・委員会を整備し、各分掌の進行管理のものと的確な業務実施する。
- ・定期的な生徒調査を実施し、学校運営にフィードバックする。
- ・計画的な校内研修の充実を図る。

②いじめ・体罰の防止

- ・いじめ防止対策委員会を設置し、いじめ未然防止を図る。
- ・いじめ・体罰に係る調査を年3回(7月・11月・3月(3年は1月))実施し、いじめ・体罰の早期発見、早期対応を行う。
- ・精神的に不安定になりやすい時期に、SOSを受信する相談体制を構築し、情報提供や相談体制による対応を推進する。

③経営企画室の機能強化

- ・効率的な予算編成と執行を継続する。
- ・施設設備の維持・更新を計画的に行う。
- ・適正な契約業務を行う。
- ・学校徴収金の適正な執行を管理する。
- ・計画的に改修工事を申請し、施設設備の適切な管理を行う。
- ・確実な情報管理を行う。

(2) 重点目標 (数値目標)

①広報活動を充実させ、募集対策に努める。

- ・中進対調査による志望予定者数 男子 220名、女子 220名
- ・学校見学会・説明会参加者数 4500名

②体力向上を図り、体力テストの数値を向上させる。アクティブプラン 2020

③生活指導を徹底し、規律ある学校生活を送らせる。1日の遅刻者数 0.5人以下

④普通科進学校としての進学実績を向上させる。

- ・国公立大学現役合格者数 30名
- ・早慶上理大学現役合格者数 25名
- ・GMARCH大学現役合格者数 160名
- ・共通テスト受験者数割合 95%

⑤ 学力向上のため、長期休業中の講習を充実させる。

- ・長期休業中の講習講座数 120講座
- ・長期休業中の講習受講者数 2000名

⑥生徒の家庭学習の時間を確保する。

- ・家庭学習時間(平日) 1年生 120分 2年生 150分 3年生 240分

生徒の学習意欲を向上させるため、検定試験を積極的に受験させる。

- ・3年生英語検定2級以上保有率 50%以上
- ・2年生英語検定2級保有率 30%以上
- ・1年生英語検定2級保有率 10%以上

⑧スマートスクール化を推進し、生徒の授業評価の以下項目の満足度を向上させる。(新規目標)

- ・授業満足度 90%以上
- ・ICT活用、AL等授業の工夫 80%